

長岡技術科学大学留学生の日本語能力および 学習実態に関する調査

—教官に対する調査結果の集計報告 その1—

加 納 満*・村 田 邦 子*

A Study on Japanese Language Proficiency of Foreign Students and
Academic Environment at Nagaoka University of Technology Part 1

Mitsuru KANO Kuniko MURATA

key Words : foreign students, Japanese language, academic environment

1. はじめに

本稿の目的は、長岡技術科学大学における教官を対象に行なった留学生の学習実態に関するアンケート調査の集計結果を示すことである。

下にあげた表1が示す通り、昭和56年に始めて本学に研究生を受け入れて以来留学生数は増大し、平成元年（1989年）には日本語・日本事情の教育課程が正規に設置された。その後も拡大し続け、100名（1994年5月1日現在）を数えるまでに至った。こうした状況に鑑み、本学の留学生の今後の日本語教育の方向を検討するとともに留学生教育全体のあり方、更には「大学の国際化」を考えるために「長岡技術科学大学留学生の日本語能力および学習実態に関する調査」を行なうことにした。調査方法は、アンケート調査法と面接調査法を用いた。アンケート調査は、各系教官、留学生、日本人学生を対象にそれぞれ異なった書式で行なった。面接調査は現在も継続中である。なお、留学生と日本人学生を対象に行なったアンケート調査とインタビュー調査の報告及び教官に対するインタビュー調査の報告は別の機会に行なうことにする。本稿では、本学教官に対するアンケート調査の集計結果をまとめたものだけを示し、それに対する分析はインタビュー調査の結果と併せて行ない、後に報告する。

原稿受付：平成6年6月15日

*長岡技術科学大学語学センター

表 1

年度	昭和						平成									
	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6		
学部生						4	12	24	29	27	27	35	35	36		
大学院生（修士）			2	3	4	11	19	19	14	20	21	22	27	40		
大学院生（博士）						1	3	12	21	27	23	17	16	19		
研究生	2	4	3	5	10	11	13	10	14	16	21	28	20	5		
計	2	4	5	8	14	27	47	65	78	90	92	102	98	100		

* 5 年度は平成 6 年 3 月 1 日付，6 年度は平成 6 年 5 月 1 日付の数である。

2. 調査方法と対象

1993年12月1日に本大学教官及び技官にアンケート調査用紙を213部配布し，同月27日までに返送するようにお願いした。調査対象者は，教授66名，助教授62名，講師6名助手40名技官39名の計213名である。回収部数は77部で，回収率は36.2%である。

配 布 数	213
回 収 部 数	77
回 収 率	36.2%

回答した者の内訳は，次の通りである。

教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	無記名	計
26	18	2	5	2	24	77

3. 調査集計の結果⁽¹⁾

質問1 指導教官として、今までに留学生を受け入れたことがありますか。

ある	52 (67.5)
ない	23 (29.9)
無回答	2 (2.6)
計	77 (100)

質問2 貴研究室⁽²⁾の12月現在の学生数は、留学生、日本人学生それぞれ何名ですか。留学生については国籍別に記入してください。

	学部生	修士課程	博士課程	研究生
日本人	217	528	49	7
留学生	16	21	16	25

国籍別⁽³⁾

中国(25) 韓国(5) フィリピン(5) インド(4) インドネシア(3)
台湾(3) マレーシア(2) タイ(2) ブラジル(2) バングラデシュ(1)
ブルガリア(1) チュニジア(1) ベトナム(1) 米国(1) チェコ(1)

質問3 貴系には英語による専門の講義がありますか。

ある/あった	6 (7.8)
ない	60 (77.9)
予定している	4 (5.2)
無回答	7 (9.1)
計	77 (100)

コメント

- ・平成3年より大学院環境工学特論Ⅱ及びⅢ毎年実施。

質問4 留学生と一対一で研究指導なされる場合、どの言語を使用しておられますか。

a. 日本語	42 (54.5)
b. 英語	14 (18.2)
c. 学生の理解に合わせて、 日本語と英語を併用	23 (29.9)
d. その他	0 (0)
e. 無回答	12 (15.6)

この質問に対して(a)と(b)の両方を選んでいる回答者がいた。使用言語を特定するために、更に(a)と(b)の内訳を見ると、次のようになる。

日本語だけと回答した者	28 (36.4)
英語だけと回答した者	5 (6.5)

コメント

- ・a. タイ人で日本語が非常に上手なため。 b. 英語もよくできるので。
- ・これまでの留学生は完璧な日本語を話せた。
- ・修士：主に日本語 博士：学生の理解に合わせて日本語・英語 研究生：進学希望者については主に日本語。その他は学生の理解に合わせて日本語・英語。
- ・英語（インドネシア留学生）
- ・ごくまれに英語。
- ・日本語（中国）、英語（フィリピン）
- ・日本語（台湾）、英語（インド）。
- ・中国人で英語がよくできない。

質問5 レポートや論文はどの言語で書くよう留学生を指導しておられますか。該当欄に○をつけてください。

	日本語	英語	日・英	その他 (使用言語を記入)	無回答	計
テスト	48(62.3)	2(2.6)	6(7.8)	0(0)	21(27.3)	77(100)
レポート	43(55.8)	3(3.9)	12(15.6)	0(0)	19(24.7)	77(100)
投稿論文	11(14.3)	23(29.9)	18(23.4)	0(0)	25(32.5)	77(100)
修士論文	27(35.1)	7(9.1)	9(11.7)	0(0)	34(44.1)	77(100)
博士論文	11(14.3)	12(15.6)	10(13.0)	0(0)	44(57.1)	77(100)

コメント

- ・中国人学生は日本語（テスト、レポート）で、米国人、インド人の Ph. D. は英語（投稿論文）で。
- ・投稿論文のみ日本語と英語。他は日本語のみ。
- ・レポートと修士論文は日本語に、投稿論文・博士論文は英語に優先度。
- ・特に指導はしていないので、日本語で提出される。
- ・学部は日本語、大学院は日本語または英語。
- ・当人の希望により英語で。
- ・修士論文はできれば英語。
- ・「本人の書きやすいように」としています。
- ・日本語・英語どちらでも可（レポート）。
- ・日英どちらでもよい。
- ・修士・博士論文はどちらでもよいと言っている。
- ・レポートはどちらでもよいことにしている。修士論文は本人の希望によるが英語を希望したものはいない。博士論文は留学生はまだ出していない。
- ・テスト・レポートは日本語英語いずれでも O. K.
- ・指導というより結果としてこうなりつつあるという現状を記しました。
- ・修士論文・博士論文（未定）
- ・今までいなかった（修士論文の欄無記入）。

質問6 発表はどの言語ですよう指導しておられますか。該当欄に○をつけてください。

	日本語	英語	日・英	その他 (使用言語を記入)	無回答	計
ゼミ輪読	42(54.5)	7(9.1)	10(13.0)	0(0)	18(23.4)	77(100)
修論発表	41(53.2)	3(3.9)	3(3.9)	0(0)	30(39.0)	77(100)
博論発表	27(35.1)	5(6.5)	4(5.2)	0(0)	41(53.2)	77(100)
学会発表	20(26.0)	8(10.4)	22(28.6)	1(1.3)	26(33.7)	77(100)

コメント

- ・中国人は日本語で（ゼミ・輪読）、米国人、インド人の Ph. D. は英語（学会発表）で。
- ・ゼミ・輪読：日本語（台湾）、英語（インド）。
- ・学会発表（機械設計工学）は日本語と英語。他は日本語のみ。
- ・学会発表（国際会議は英語）。
- ・「学会発表」（英語のこともある）。
- ・学会発表：国際会議は英語。国内学会はどちらでもよい。本人の選択に任せている。
- ・「本人の発表しやすいもの」で発表するようにしています。
- ・修論発表に関して発表は日本語だが、要旨のみ英語。
- ・以前に在籍したマレーシア人の女子留学生の場合は、英語はだれよりも正確であった。
- ・日英どちらでもよい。

質問7 先生の研究室では専門書、論文、資料などはどの言語で読むよう指導しておられますか。

	日本語	英語	日・英	学生の 母語	日・英 ・母語	日・英 ・その他	その他	無回答	計
専門書	2(2.6)	16(20.8)	33(42.8)	0(0)	3(3.9)	2(2.6)	0(0)	21(27.3)	77(100)
資料	2(2.6)	16(20.8)	28(36.4)	0(0)	3(3.9)	2(2.6)	0(0)	26(33.7)	77(100)
論文	0(0)	20(26.0)	32(41.5)	0(0)	3(3.9)	2(2.6)	0(0)	20(26.0)	77(100)

コメント

- ・日本語で研究の進展に追いつけないので英語（微生物学・分子生物学）。
- ・専門書・論文については英語のほうが必要度高い。
- ・内容を主とし言語は従。ただし、日本語が不十分な学生には英語とせざるをえないだろう。現在の学生は日本語でも OK。
- ・輪講において洋書を用いている（機能性セラミックス材料）。
- ・本研究室（材料強度）の留学生については日本語よりも英語の表現能力が劣るような気がする。そこで、できるだけ英語に接するように指導している。
- ・専門書、資料、論文（その他、独語）。
- ・主に英語（論文）。文献に応じて日英両方で読めることを勧めている。
- ・日・英・学生の母語（電気化学）。
- ・日本語の資料が少ない（粒子ビーム・レーザー工学）
- ・留学生なので英語を勧めているが本人は中国人で意味のわかる日本語を使いたがる。
- ・読むべき論文の内容が重要であり、技術先進国としてのわが国には日本語で書かれた重要な論文が多い。
- ・学生の母語とは関係しない。
- ・特に指示しないが、日本語で読む必要が特にない。学部学生には日本語を勉強するよう指導するが、研究留学生等については特に指示しない。
- ・日本語で書かれた優れた論文があるときは指導に困っております（情報処理関連分野）。
- ・学生の母語も（電子材料セラミックス）
- ・ドイツ語（機械設計工学，建設機械工学，運搬機械工学）。
- ・こだわらない。
- ・基本的に言語を限定しない。
- ・特に指示していない。
- ・どれでもよい。
- ・特に指導せず、ケースバイケース。
- ・日本人学生には英語のゼミ（英語の文献購読）を行うようにしていますが、留学生には特に指導はしていません。

質問8 本学の留学生の日本語能力について、日頃どのように感じられておられますか。該当するところに○をつけてください。

	満 足	まあ満足	かなり不満	不 満	その他	無回答	計
専門書を読む	11(14.3)	30(38.9)	8(10.4)	6(7.8)	3(3.9)	19(24.7)	77(100)
レポートを書く	8(10.4)	32(41.5)	12(15.6)	6(7.8)	2(2.6)	17(22.1)	77(100)
論文を書く	3(3.9)	24(31.1)	11(14.3)	7(9.1)	3(3.9)	29(37.7)	77(100)
ゼミで討論する	6(7.8)	28(36.3)	7(9.1)	9(11.7)	1(1.3)	26(33.8)	77(100)
輪読・ゼミで発表	6(7.8)	29(37.7)	6(7.8)	10(13.0)	1(1.3)	25(32.4)	77(100)
学会で発表	4(5.2)	23(29.9)	6(7.8)	7(9.1)	2(2.6)	35(45.4)	77(100)
研究室や実験室での 専門的な会話	10(13.0)	28(36.3)	3(3.9)	8(10.4)	2(2.6)	26(33.8)	77(100)
研究室での日常会話	17(22.1)	25(32.5)	7(9.1)	3(3.9)	1(1.3)	24(31.1)	77(100)
事務手続き	8(10.4)	26(33.8)	5(6.5)	9(11.7)	2(2.6)	27(35.0)	77(100)

コメント

- ・Ph. D. の研究生は日本語はダメであるが、それでもかまわない（微生物学・分子生物学）。
- ・30歳前後の研究生・学生を過去に二人引き受けたことがあった。6ヵ月の日本語専修コース後本学に来て半年日本語クラスにかよったが、ほとんど英語でしか意思を通じられなかった。若い学生はまあ満足といえよう。
- ・当人の能力次第のように思われる。日本語の能力ではなく、専門分野に対する能力の有無。
- ・講義において、テストのとき、問題の意味（日本語）が十分把握できなかった留学生がいた。
- ・台湾（まあ満足）、インド（不満）。Dr コースの学生は日本語ができなくても支障なし（しかたがない）。
- ・「論文を書く」「学会で発表」（経験なし）。
- ・この質問には一律には答えられない。日本語教育を受けてきたもの、高専から入学したもの、大学院に直接母国から研究生または留学生として来るものなどによって著しく異なる。

- ・人によりけりです。私の研究室にいる中国からの留学生(D3)の日本語は(読み、書き、会話のすべて)非常に高いレベルにあります。フィリピンからの研究生は、日本語はほとんど理解できていないと思います。
- ・個人差が大きい。
- ・人によるので書けない。
- ・個人差が大きいので答えられない。
- ・留学生に個人的に会っていないので不明。

質問9 本学の留学生の日本語学習の必要度について、該当欄に○をつけてください。

		必 要	あまり必要でない	不必要	その他	無回答	計
読 む	専門の文献を読む	51(66.2)	13(16.9)	3(3.9)	0(0)	10(13.0)	77(100)
	新聞・雑誌を読む	48(62.3)	17(22.1)	3(3.9)	0(0)	9(11.7)	77(100)
	小説を読む	16(20.8)	34(44.1)	14(18.2)	0(0)	13(16.9)	77(100)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	77(100)	77(100)
書 く	レポートや論文を書く	52(67.5)	12(15.6)	2(2.6)	2(2.6)	9(11.7)	77(100)
	手紙を書く	33(42.8)	32(41.6)	4(5.2)	1(1.3)	7(9.1)	77(100)
	書類に記入する	52(67.5)	12(15.6)	3(3.9)	0(0)	10(13.0)	77(100)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	77(100)	77(100)
聞 く	講義や発表を聞きノートをとる	59(76.6)	5(6.5)	3(3.9)	1(1.3)	9(11.7)	77(100)
	テレビやラジオで情報を聞き取る	47(61.0)	15(19.5)	2(2.6)	0(0)	13(16.9)	77(100)
	日常会話を聞き取る	58(75.3)	8(10.4)	2(2.6)	0(0)	9(11.7)	77(100)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	77(100)	77(100)
話 す	学会やゼミで発表する	54(70.1)	9(11.7)	3(3.9)	1(1.3)	10(13.0)	77(100)
	学会やゼミで討論する	52(67.5)	11(14.3)	3(3.9)	1(1.3)	10(13.0)	77(100)
	一般的な話題について話し合う	51(66.2)	12(15.6)	4(5.2)	0(0)	10(13.0)	77(100)
	生活に必要なことを話す	53(68.8)	12(15.6)	2(2.6)	0(0)	10(13.0)	77(100)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	77(100)	77(100)

コメント

- 学部は「必要」だが、大学院は「あまり必要でない」。
- 日本を理解させることが留学のもう一つの目的ならそうあるようにさせていくべき。研究だけなら不必要。
- 私の研究室にいる2人は（中国、フィリピン）は、日本語能力に関して両極端にいると思われますので一般論として記入し難いと感じています。中国：全く不要（日本人以上？と思うぐらいです）。フィリピン：日本語は全くダメ（だと思います）。
- 日本語になれるため読んだらよいという意味で、「小説を読む」は必要。英語ができれば「学会やゼミで発表する」、「学会やゼミで討論する」のはあまり必要でない。
- 英語発表を行う学会が多い（地盤工学）
- 「レポートや論文を書く」は必要（卒業するには必要となろう）。ノートは英語で書いてもかまわない。「テレビやラジオで情報を聞き取る」（天気予報程度は必要かと思われる）。
- 「学会やゼミで発表する」「学会やゼミで討論する」：必要（これは日本人の学生でも同様です）。
- 「レポートや論文を書く」（場合によってはあまり必要ではない）。
- 書く練習（日本語ワープロ）。
- 書く練習（英語の和訳をさせるとき）
- 話す練習が最も重要。
- 通常は英語で書かれた論文が読めれば十分であるが、分野によっては日本語で書かれた論文を読まねばならないことがあり、case by case ではないと思います。
- 読む練習（生活のこと）。
- 読む練習（生活全般）。
- 読む練習（中学・高校テキストを使った用語の理解）。
- 中国人留学生は英語能力も低い。

質問10 研究活動に必要な専門的日本語能力に関して、貴研究室では何か特別な指導をしておられますか。（論文指導や発表指導を含む）

指導している	20 (26.0)
本人に任せている	35 (45.5)
その他	4 (5.2)
無回答	18 (23.3)
計	77 (100)

コメント

「指導している」と回答した者

- ・ただし、内容の把握には英語を使用している（フィリピン人）。
- ・主に研究発表に関して。
- ・論文指導。
- ・話し言葉の日本語コース取得を指導している。
- ・ゼミでは必ず話をさせる。

「本人に任せている」と回答した者

- ・他学生との仕事上での会話で修得。
- ・語学センターの指導を受けている。
- ・語学センターを頼りにしている。
- ・大学内の留学生のための日本語授業に出席。
- ・来日まもない頃日本語講座を受講した。
- ・日本語クラスに出席。日本語の文献を必要にせまられて読むことの繰り返しの中で身につく。
- ・日本人学生との会話を通してレベルアップしていると思う。
- ・先輩学生との討論、質問等、研究室仲間との会話などによると思われる。
- ・ゼミ、輪講などで発表などは行っている。また、その程度にやっていて結構ついてきていると思う。
- ・授業、学生との会話等。
- ・自分で辞書を引いて文献、雑誌等を読んでいるようです。

- ・高専から進学する学生は日本語をよく理解している。直接本学に来た学生も日本語をよく勉強してきている。
- ・日本語科目履修、日本人との会話。
- ・日本語授業の受講。専門用語（日本語）の学習。英語論文の和訳。和文論文の英訳。
- ・主として本学日本語クラス及び学生によっては日本語テープによる学習を行っているようです。
- ・十分日本語能力があるのでほとんど問題はない。
- ・よくわかりません。

「その他」と回答したもの。

- ・すでによくできる。但し「書きもの」をするときはすべてチェックして1対1で指導。
- ・学会発表についてはもちろん指導しているが、その他の部分は本人に任せている。T. V. 語学センター、自習など。
- ・研究活動には日本語は必要ないので何もしていません。ただし、本人の生活には日本語が必要なので本人が努力して聞く、話すことはできるようになっている。

質問11 留学生の日本語で気になる点はありませんか。

ある	42 (54.5)
ない	27 (35.1)
無回答	8 (10.4)
計	77 (100)

「ある」と回答した者（42名に対して）

敬語	16 (38.1)
発音	7 (16.7)
文法	9 (21.4)
語彙	10 (23.8)
その他	1 (2.4)

コメント

「ある」と回答した者

- ・全ての項目に関して60点程度（理解できるが不自然な日本語）。

「ない」と回答した者。

- ・正しい日本語ではないが、この程度で用は足りるという意味で。
- ・辞書に書いてあることと、日常使用している内容が大きく異なる場合、例えば、「～と対照として」の「照」の代わりに「称」を使いたがる。
- ・但し、十分とは感じません。
- ・漢字、ひらがな。
- ・中国からの留学生については何もありません。
- ・文法：てにをはの使い方。
- ・敬語：日本人も
- ・どちらかという日本人学生よりもていねいなわかりやすい日本語を話す。

質問12 留学生と話しているとき、意思の疎通に問題はありますか。当てはまるものに○をつけてください。

問題ない	36 (46.8)
やや問題がある	29 (37.7)
おおいに問題がある	6 (8.8)
無回答	8 (10.4)

コメント

「問題ない」と回答した者。

- ・私の場合、よくできる子なので。
- ・個人差が大きい。
- ・教官の指示や依頼を理解できない、規則や約束を守らない。
- ・研究・講義の面では最低限は問題ないという意味です。

「やや問題がある」と回答した者。

- ・具体的には表わせないが、日常会話で細かいニュアンスの違いを互いに勝手

に解釈してしまうことは多々ある。

- ・語彙不足のため、だまってしまうことがある。
- ・留学生自身の考えを十分伝えきらず、もどかしさを感じているようである。
- ・本年度中国よりの研究生に対してのみ日常会話（専門分野は問題はない）に少々問題がある。通じないことがある。
- ・私の英語がブーなため。
- ・「わかりました」という返答を聞いて、そのつもりでいたら全然わかっていなかったことが多い。「わからないこと」は「わからない」と言うように指導している。
- ・こちらの言いたい「ニュアンス」が伝わっているか否かが不安になるときがあります。但し、大きな問題ではありません。
- ・ふつうのスピードで話すのでは理解されにくい。
- ・discussion が十分できにくい。英語が十分なら行えても、これが十分とはいえない人もいる。
- ・相手の日本語理解力に問題あり。
- ・簡単な日本語では理解してもらえる。
- ・本当に理解しているのかどうか（念を押すと笑顔で「はい」という）。
- ・英語と日本語の mix では細部のところまでは完全にわからない。
- ・誤りなく理解しているかどうか確認する方法がない場合が多い。
- ・問題というより、戸惑いを感じる点。研究指導上、学生の考え方を修正する場合、納得させるのに時間がかかる。その点、逆に日本人があっさりしすぎているのかもしれませんが。
- ・要するに国民性人間性の微妙な違いによるもの、例えば、第三者に対する悪口（カゲロ）を言うときなどの日本人特有の表現などは留学生には通じていないようである。
- ・背景、価値観、思想の違いかと思われるが、口頭指示や文書上の言葉の解釈が日本人学生とかなり違う。
- ・わかっていても無視する。はっきりした理由が伝えられない。単に忙しかっただけ、という程度。本当にそうか、表現が不足なのか、不明である。
- ・日本人の研究ベースがなかなかつかめない（日本人はせっかちなこと、きちんと仕上げるのを好むことなどへの理解）。
- ・感情等を表わすとき。
- ・文化の違いについて大いに感じる。

- ・彼らの生活習慣の異なる状態（小さいときからの生活習慣）が多いもので彼らの母国の歴史的な生活習慣を含めて理解しているつもりでも微妙なところで理解を得ることができない。

「おおいに問題がある」と回答した者。

- ・30歳前後で始めて日本語を学ぶ場合。
- ・伝達事項が十分理解できなくても、理解したと答える。
- ・英語すらできないので、意思が通じない中国人留学生が多い。

その他のコメント

- ・人によっていずれにも該当する。学習上の考え方を教えるとき、本人の母国語以外では深い意思を伝えられないことがある。
- ・中国からの留学生については何も問題（日本語）はありません。フィリピンからの留学生もたぶん問題（英語）はないと思っています（文化的な面や感情面を除いて）。
- ・インド人は英語はよくわかりますので、この点では問題がありませんが日本の事情が十分には把握できないためか、相互理解がなかなか難しいのが現状です。中国人は、英語・日本語ともチンプンカンプンのため、苦勞しております。夫婦で滞在のため家庭では中国語を使用することから、進歩が遅いのではと考えております。

質問13 研究生活がうまくいっていない留学生がいるとしたらその原因は何だろうと思われますか。該当する項目すべてに○をつけてください。

専門的な能力	34 (44.2)
日本語能力	15 (19.5)
性格	18 (23.4)
経済事情	14 (18.2)
健康	5 (6.5)
人間関係	12 (15.6)
その他	1 (1.3)
無回答	20 (26.0)

コメント

- ・留学の目的意識の欠如。
- ・東南アジア系では、数学、物理学の訓練不足。
- ・ただし、日本語ができないと専門の講義の単位をとるのは難しい。研究はできる。
- ・日本語能力：何とかなる。性格、人間関係：今のところ問題なさそう。経済事情：外部資金のある研究室ではその気になればアルバイトさせれば何とか最低線は確保できよう。
- ・年齢。年齢の高いもので適用能力に若干欠けるものがある。
- ・年齢。
- ・図書館に英語等の基礎参考書を留学生用に用意してもよいのでは？ On the job training を自然に実行させたらいいと思う。
- ・中国人同士で中国語で話すことが多い。日本人ともしっかり積極的に会話する必要がある。
- ・日本人の友人がいない。
- ・該当項目は人によって異なると思われます。
- ・事情はさまざま、個別の対応が必要。
- ・全ての項目が原因になるよう思われる。特定できないのではないかな。
- ・わかれば苦勞しない。
- ・文化社会の違い。
- ・文化の相違（インド人，vegetarian）。
- ・宗教関係。
- ・生活・習慣の違い。
- ・生活・文化の違い，日本人の側からの理解不足。
- ・現研究生の専門的能力は優れていて問題ない。

質問14 留学生の指導にあたって、何か問題が生じたことがありますか。

ある	28 (36.4)
ない	35 (45.4)
無回答	14 (18.2)
計	77 (100)

コメント

「ある」と回答した者。

- ・食事（イスラム教）、保証人
- ・あまり話しながらない性格のため（消極的）。
- ・習慣の違いかあまり研究しない。無断で休むことがある。
- ・本学でなく以前東大にいたとき、自意識が強く、あやまちをなかなか認めず、実験がスムーズに行えないことがあった。
- ・留学の目的意識の欠如による研究上の意見の違い。但し、これは日本側の責任も多々ある。1 研究のため2 日本を理解させるため3 ただなんとなく（目的がハッキリしない）1—3 いずれなのか。但し、これは小生が留学生を自分の責任で受け入れたのではなく、他から与え（？）られたものであるため。
- ・本人の学力を超えた進路を希望する。
- ・専門能力。30歳前後で母国で職についている場合。その職務に密接に関連した実務的、how to 的知識の習得を目指して日本に来る場合が多い。日本の大学（院）はこれには対応できない。留学生引き受けのとき、アカデミックコースか実務コースか希望を適切に聞く必要を感じる。
- ・本人の専門能力、基礎学力が不足して、必要な程度の研究ができない。性格に融通性が足りず、新しい適応ができない。
- ・中国人留学生は決められた範囲を学ぶ力はあるが、新しい分野を開く能力（意欲）に欠ける。
- ・日常の指導、コンタクトを続けることが一般に難しい。多くの場合、ひっこみ思案、沈黙になってしまう。期限が切れてから申し出てくる（成績など）ことが多く、かなりの労力を要する。（常識的には不合格としてよいのだが、本当に理解していないのかどうかははっきりしない）
- ・本人のやる気。
- ・言語、言葉の問題でない場合が、ほぼすべてである。
- ・意思疎通が十分ではなかった。
- ・意思疎通不可能（英語能力のばらつきが大きい。日本語聞き取りと会話能力のひどさ）。消極的姿勢。日本人学生に受け込めない。経済的に同等に扱えない。
- ・留学生の語学力（日本語と英語）。
- ・学生といえども研究は自分で切り開いていくべきとする教官側の考え方が留学生に理解されなかったことがある。

- ・指導教官の指導力不十分。本人の日本語文章表現力不足。
- ・同じ国の留学生でも能力、経済力、人間性に大きな差がある。特に経済力。
- ・実験室の使用機器、器具等のきまりを守らないで日本人学生とトラブルが生ずることもある。
- ・過去に東ドイツからの留学生がおりましたが、勉学よりもお金をためることに興味が走ってしまい、苦勞したことがありました。
- ・日本人の学生と留学生を平等に扱うことが様々の事情で難しく、少し甘やかしてしまうきらいがあり、指導がやりずらいです。
- ・保証人になってくれと頼まれる。
- ・特に母国の国費留学生については経済的に困っている様子である。
- ・就職の問題、パスポート再発行の問題など（幸い不況にもかかわらず、日本企業（一部上場）へ就職がやっと内定したので、本人はたいへん happy である）。
- ・身分保証の問題（留年できない）。
- ・身元引受人（保証人）の問題は大きいと思う。現在は個人的に保証人になっていることが多い。大学全体で何とかできないものか。
- ・1月に本学研究生となり留学生会館に入ったが、来年3月には出てほしいと連絡が事務からあった。これは規則から「2年度まで入居できる」というものであり、日本の方式を一方向的に押し付けているように思う。理解されにくい。もっと合理的規則（実質2年間とか）にしていけないと留学生によけいなストレスを与え、勉学に打ち込めない。事務の対応、心構えも重要。担当者には当然、英語が必須。

「ない」と回答した者。

- ・以前在籍した修士・博士課程の中国人留学生の場合、途中で結婚して妻を来日させたために生活関連の問題を出した。卒業後の進路として、帰国を望まなかったため就職先を探すのが困難であった（結局はシンガポール大に就職）。

質問15 本学で行われている日本語教育プログラムには以下のものがあります。御存じのものに○をつけてください。

語学センターの全学向け日本語授業（6クラス）	62（80.5）
語学センターの全学向け日本事情授業（2クラス）	54（70.1）
語学センターの日本語補講授業（2クラス）	31（40.3）
語学センターのテーブルライブラリーでの自主的学習	50（64.9）
日本語・日本事情の資料室（計画・経営棟510室） の図書・テープ・ビデオなどによる自習	30（39.0）
無回答	11（14.3）

質問16 本学の日本語教育や留学生にかかわる問題について、日頃感じておられることをご自由にお書きください。

〔言語に関わる問題〕

- ・当研究室の留学生は高専出身のために日本語ができますが、他の学生については知りません。彼の場合、英語ができないため、英語→日本語、英語→日本語→中国語（分からないとき）として勉強しています。日本語を中心としているのでかなりがんばっていると思います。
- ・留学生の日本語レベル（全体でどの程度の実力があるのか、どの程度の向上が得られたのかなど）を担当教育にフィードバックしては？
- ・学部の授業に日本語能力の低い（聞く、書く、話すがよくできない）英語能力も低い学生（研究生）がいます。一方では研究室にいる学生のようにほとんど問題のない者がいます。多分学生さんの能力に合わせて日本語教育を行うシステムが必要かと感じます。
- ・よくできる者でも書かせて見ますと、もう一歩ということが多いようです。よくできる留学生には書く訓練がほしいと感じます。
- ・日本人学生について普通の日本語の文章が書けるようにしてほしい。
- ・本学の留学生の日本語能力は、他大学（特に東京）の学生より高いと思われます。その理由は日本人学生の英語力が低いため、彼らは日本語を上達せざるをえないのだと思います。

- 学部留学生に日本語によるコミュニケーションが不十分な学生が多いようである。
- 留学生の日本語に関してはほぼ満足しています。
- 現在大学院生物材能工学課程に在籍の留学生 (M 1) については問題点があると感じたことがない (授業&報告書に関しては)。
- 語学は通じればよい。論文は帰国後は英語あるいは母国語を使用のはず。日本語の論文、あえて必要なし。
- 日本の高専出身の学部留学生については、日本語能力についてそれほど問題がないように思われる。従って、彼らにとって日本語での講義を聴くこと、日本語で試験を受けることについてあまり問題がない。ただ1年からの入学者においては、日本語の訓練がより必要のように思われる。研究室での研究活動においては、むしろ英語ができない留学生の英語能力を高めることの必要性を感じる。研究生、Dr. コース学生は研究室では日本語をあまり必要としないが、日本語ができない留学生に対する日常生活の体系的なサポートシステムを作る必要があろう。
- 英語の授業に関して言えば、留学生は非常によくでき(一部を除く)、概して熱心であり、クラスのリーダー的存在として活躍してくれている。また、私の授業では英→日、日→英の通訳をするのだが、日本人学生とペアになってお互いに助けあっているようである。日本語もほとんど問題がなくテストも普通に受けた。
- 日常会話については比較的確実にレベルアップしているように感じられるが、日本語文章の読解力、作文力には大いに問題を感じる。特に、専門用語の吸収が遅い。
- 言葉の学習は非常に困難なことです。しかし、留学生は日本語を日常使わねばならないので、会話は自然に慣れると思います。したがって、文法、構文、作文法といったことを語学の先生が教えて下されば幸いです。これまでの経験より、(1) 女性は会話力の向上が男性より早い(男子学生が喜んで話をする結果でしょう)。(2) 一見欧米人は会話力向上が遅い(学生は敬遠し、教官は英語で話をする結果でしょう)。(3) 会話力の向上は個人差が非常に大きい(万国共通の原則で、個性に依存する)。結論として、会話力向上には本人よりも周囲の学生、教官に積極的に話をするよう指導することが有効と思う。文章力は基本的な原則の学習(日本語教育の専門家による)と実際の必要に応じた作文の指導(各専門の教官による)を並行して行うことが必要で

しょう。

- 日本語の語学力に留学生の間でかなりの個人差がある。日本語がよくできる学生は問題はないが、語学力の低い学生が本学の授業を理解するのは難しいので、入学する前にもう少し日本語を勉強してきてほしい。
- 当研究室の修士学生 S 君の日本語の修得速度を見ておきますと、日本語学級の御指導の良さが目につきますが、語学のマスターは多分に本人の自覚、努力に負うところが多いためか、中国からの留学生の方はさっぱり上達しません。今度ともお世話をおかけすることとは思いますが、御指導の程よろしく願いいたします。
- 専門などの授業で教官の話す日本語が明確でないため、外国人留学生が苦しんでいると何度か聞いている。
- どの学生も概ね、日本語が話せる様子を見て感心している次第です。英語の授業で私はまだ日本語を使ったグラマー・トランスレーション方式の部分が多いため、和訳のさい、留学生は（かなりできるのですが）日本人と比べてハンディを負うことになります。英語の授業でするので日本語力でハンディがつくとまずいのでその部分をどうするかというのはこれは英語教師の考えるべきことですので、日本語教育に関しては概ねよさそうに思われます。
- 英語力も期待する。
- 英語がある程度通ずるので日本語を一生懸命覚えようという気のないものもある。
- 留学生のレベル、すなわち、研究生、学部生、修士学生、博士学生によってそれぞれ事情が異なるであろうが、科学技術の先進国である日本の国語を習得することが工学の先進的知識を獲得する上で不可欠であるという共通認識が必要である。
- 工学における多くの先進的情報が英語で書かれた論文がなく、日本語で書かれた論文のなかにあるという認識を留学生がどの程度もっているか疑問に思うことがある。

[生活・経済面にかかわる問題]

- 保証人の問題。奨学金が充分でなく、TA でも生活はできないこと。
- 大体においてしっかりとした日本語を習得している学生が多いようでたいへん助かっています。生活費、学費を自分で稼ぐためにアルバイト（rate の高い魚市場など）に時間を取られる学生も結構いるようで修士研究などが遅れ

る例があります。

- ・最近の円高で経済的にはかなり苦しんでいるようである。そのため、アルバイトなどで無理をしがちのようであるし、研究室でもうとうとしていることが多い。本研究室の留学生は、私費留学生であるため経済的な何らかの援助が必要であると思う。
- ・マレーシア人が英語教師のアルバイトをしていたがどんなものでしょうか。
- ・日本人と経済的価値観に大きな差がある。このことがよい場合もあるし、悪い場合もある。以前、マレーシアの留学生が二人いた時期がありましたが、一人は奨学金を得て奥さんと呼び寄せて悠々自適の生活を送っており、あまり研究に熱心さがありませんでした。もう一人は生活費も不自由しておりバイトに熱を入れすぎて、やはり研究をおろそかにするようになりました。こういう case はどうなのでしょう。
- ・留学生の本人はむろん、家族、子供を含めた身元保証人の件を大学で何とか保証することができないものであろうか。
- ・彼らの経済的（私生活）な支援がボランティアだけでなく支援できる制度を作ることが大切だと思う。
- ・彼らの自動車免許をとる人が最近多いようだが日本国内の人身事故を起こした場合、どう考えているのでしょうか。私が保証人になった留学生（中国）には免許はとらせませんでした（事故の場合個人的にそこまで保証できないから）。

[指導・受入れ方に関わる問題]

- ・大学院修士課程博士課程に正規学生として入学するものは研究に差し支えない程度に日本語で読み書き話することができることを前提として受け入れるべきである。
- ・本学の留学生援助団体「むつみ会」はたいへんよい団体だと思う。他大学でこのような実例はない。日本語教官にも「むつみ会」の人を起用して参加してもらうことを提案する。
- ・現在、海外技術者研修協会との関係で、社会人留学生の受け入れ準備が進められています。前頁質問14のところで記したように、実務コースが本来の希望なのに奨学金にひかれて本学にき、アカデミックコースに失望して帰る人が増えないか心配です（私が経験した30の人、2人はそうでした）。会社・大学の、実務・アカデミックの分担が日本と海外ではずいぶん違うこと一日

本では実務は少ない—を十分認識の上来てもらうことが必要でしょう。そうでないと、金と時間をかけて日本に好感を持たない外国人を増やす結果になる恐れがあります。

- ・専門分野の指導については日本人とまったく同様とは言えないまでも学部は学部なりに、修士・博士はそれなりに、工夫した指導が行われているように思われる。しかし、日常の学園生活において、どこまで日本人にとけこんでいるかとなると、うわべはともかく深部のところはわからない。この点、日本人に問題があるのか、彼らに問題があるのか、今後の検討課題と思われる。
- ・留学生にとっての日本語学習の必要性が日本の大学で学位を取得するためなのか、日本の企業等で将来活躍するためなのか、私自身まだよくわかりません。もし、日本の大学での学位取得のためだけならば、それに必要な最小限の日本語（講義を聞き、レポートが書ける）で十分ではないかとも思えます。ただ、本学の留学生に関してはこの点でもう少し日本語の勉強が必要かと感じます。国際社会で活躍するという点からみれば、彼らにとっては日本語はあまり必要性がないように思われます。公用語としては英語で十分と思われます。私事ながら、今年3月まで企業にいましたが、企業における外国人エンジニアに期待する点としては日本語が十分使えることよりも（1）完全に英語を使えること（最近のほとんどの日本人エンジニアは企業において外国人エンジニアとは英語で会話をすることが多いです）、（2）日本人の感覚、習慣等を理解することがあげられると感じます。特に（2）については大事な点でした。
- ・学生により相当な差があるものと思われるが、留学生を積極的に日本学生と交えて日本語の勉強をさせるとよいと思う。それには留学生会館はあまり好ましくない。
- ・中国、東南アジアを中心に日本に留学したい人がたくさんいるが、能力不足、性格的に研究に適さないといった人がいるので、なるべくあらかじめ面接してよく話し合ってから来てもらうようにすべきと思う。そうでないと留学してむしろ、反日感をもって帰る人を多く養成することになりかねない。
- ・英語のみで生活、勉学、研究、事務が問題なくいく大学の環境となるのがよい。私自身も努力したい。
- ・最近留学生に対する事務局からの広報活動が英語によってもなされるようになった。留学生係りのご努力に感謝しています。
- ・留学生の男女交際の機会を作ってあげてください。Fadder system（指導上

級生)や里親制度で正月などを一人にさせないで、留学生の声をまとめるための自治会を作ればよいのではないか。留学生も母国語を教えるサークルを主催するなど貢献せよ。

- 留学生との接触がほとんどありませんので、特に感じていることはありません。むしろ、留学生の側の要望を大学のいろいろな面に反映させるチャンネルが確立されているのかどうか、気になることです。
- 国や個人によって事情が異なりきわめて難しい。しかし、学部、修士レベルでは日本語能力が十分でないと実際上効果ある教育はできないと思われる。
- いくら修士、博士コースの留学生で、研究者といってももっと教官自身で日頃のコンタクトをとらないとよい指導はできない。出張とか、学校をあける日が多すぎる。引き受けたからには立派に指導してもらいたい。
- 留学生問題は留学生の能力というよりもむしろ、教官と学生の受け入れ側のほうにより大きな問題があるように思われる。
- 工学部における日本語教育の目的あるいは特性が明確化されていないように感じる。
- 一般的な日本事情も重要ではあるが、更に不可欠なものは日本における科学技術事情、工学事情、産業事情ではないだろうか。
- 日本の大学教育事情の理解も重要である。特に、大学工学部の社会的使命、大学工学部において学生が行うべき研究活動の意味、学生に対する教官の指導形態などに関するわが国特有の性格が留学生に理解されていない面がある。
- 教官から与えられた研究テーマをいかに独力で克服するか、そのプロセスで身につく創造性、知的活力こそが研究を媒介とした大学教育であるという日本的特質がどの程度、留学生に知らされているか、疑問に思うことがある。

[文化・習慣に関わる問題]

- 国によっては身分上の問題等から指導しにくい場合がある。
- 留学生は東南アジアからの学生が多いと思われそうですが、一口に東南アジアといっても私自身なかなか想像が付きません。現在、NHKで「アジアハイウェイ」の番組を時々見ておりますが、別の世界のように感じられてなりません。おそらく彼らはこうした社会・文化の背景を持っているのでしょう。私たち日本人の認識があまりに浅いという気がしてなりません。機会をみつけてこうした国々を訪れてみたいと思っております。

- 日本語教育は授業だけでなく研究室の日本人、同級生の日本人と積極的に接することが必要であるが、性格上それができない留学生がいるので彼らをどのようにしていくかが問題である。また、留学生は個人によって異なる宗教をもっているため、この点についても考える必要があると思う。
- 文化習慣の違いからくる発想の違い、行動様式について戸惑うことがある。
- 英語の授業に外国からの学生が含まれることは異文化理解上大変有意義で留学生たちに感謝している。例えば、Video 教材中の gestures が日本と Korea で異なっていたり、手紙の形式が日本と Malaysia で異なっていたりする。日本人学生は文化の多様性を具体的に、そして身近な問題として認識できる。
- 「友人ができない」という相談を一度受けたことがある。そこで日本人学生を含めて食事をして知ったことだが、日本人学生は同席している外国人学生に対する言葉上、内容上の配慮が全くなかった。日本人学生に対して、異文化の人々とのつきあい方に関する教育／啓蒙が何らかの形で必要だと思った。
- 主義主張が強すぎる。
- イスラムの人はやはり食べ物が問題。

[学習・勉学態度に関わる問題]

- どの分野でも、学習効果のある／なしは当人の意欲にかかっている。従って、教育が教える側からの押しつけになってはいけない。わからないこと（または、どこがどうして理解しにくいのか）を学生とともに勉強する。以上のように考えて、学生に接するよう努力しております。とはいえ、本学の学生はよく勉強します。小生のわからないことを質問してきます。私のほうがもっと勉強しないといけないといつも反省しております。
- まじめに努力すれば、大部分はカバーできると思われるが、アルバイトに熱中したり、授業をサボったりするのは問題。
- 日本語に対する問題より、本人の学力、経済力、意欲のほうがずっと大きい。
- 生物系で唯一人の留学生が私の研究室にいますが、日本語も達者で特に問題はないので、特記することはありません。今後更に留学生が増えたとき予想される問題として、語学以外の基礎学力がついているかどうか大きな問題になるように思います。
- 私の研究室の場合、「留学生」を特別扱いしておりませんが、日本人学生と対等あるいはそれ以上に研究活動に取り組んでいると感じます。本学の留学生全般についてはよくわかりません。

- ・「語学」について留学生にかかわる問題でしょうか、それとも、非常に広い意味での留学生にかかわる問題でしょうか。前者の場合では、特にありません。後者に関しては、数学、物理、化学などの基礎学力の不足を感じさせる人が多いと思います。
- ・主に学部3年～4年の機械系留学生が受講する必修科目のコンピュータ科目において、著しく日本人と差があることを感じます。キーボードやコンピュータとの対話をイメージとしてさえも理解できずにいる学生を時々見かけます。比較的英語のよいマニュアルがあるにもかかわらず、うまくかみ合っていないと思います。やはり、長い経験が必要なのかと思う反面、どういう理由であれ（いろいろな科目のために）早期に利用してくれるように願うものです。

[その他]

- ・特になし。
- ・当研究室では学部4年に今年初めて留学生を受け入れたものですから、これから経験することになります。今のところ始まったばかりで何とも言えません。
- ・個人的に留学生と接する機会がないのであまりお答えできず協力できないことが残念です。調査ごくろうさまです。
- ・生活実態調査もお願いしたい。
- ・先生方のご苦勞とご工夫に敬意を表明したいと思います。留学生は大変マナーがよいことがうれしいことです。
- ・留学生がどのような問題を抱えているのかについての情報が全く入ってこないで彼らについてはその実情がよくわかりません。

おわりに、本調査にご協力いただいた教官各位、ならびに本報告に有益な助言をしてくださった査読委員の方々に謝意を表わしたい。なお、調査用紙の質問項目は仁科（1991）と東京大学工学部日本語教育調査研究会（1992）を参考に作成した。

紙面の都合上、教官用アンケート調査用紙の掲載はしない。

(注)

- (1) 表中の数字は人数、()内の数字はパーセント(小数点第2位四捨五入)

長岡技術科学大学留学生の日本語能力および学習実態に関する調査

を表わす。

(2) 本学では学部第4学年時に、学生は研究室に所属する。

(3) 同じ講座に属する複数の教官が重複して回答しているため実際の学生数よりも多くなっている。公式発表(平成6年1月1日現在)では以下の通りである。

留学生及び日本人学生受入状況(平成6年1月1日現在)

身分				経費別人数		
				国費	私費	政府
大学院 博士後期 課程	5年	5	16	4 [中国3, インド]	1 [中国]	
	4年	4		4 [中国, インド, チェコ, ブラジル]		
	3年	7		6 [中国3, 韓国3]	1 [台湾]	
大学院 修士課程	2年	11	27	4 [中国4]	6 [中国3, タイ, フィリピン, インドネシア]	1 [インドネシア]
	1年	16		3 [中国2, チェニジア]	13 [中国9, タイ, マレーシア, インドネシア, インド]	
学部第4学年		18	35	6 [フィリピン3, 中国, タイ, インドネシア]	10 [中国3, インドネシア3, マ レーシア2, フィリピン, 台湾]	2 [マレーシア2]
学部第3学年		13		3 [中国, フィリピン, インドネシア]	6 [マレーシア4, 中国2]	4 [マレーシア4]
学部第2学年		2				2 [マレーシア2]
学部第1学年		2			1 [韓国]	1 [マレーシア]
研究生		17		8 [中国3, パキスタン, ブラジル, フィ リピン, バングラディシュ, ヴィエ トナム]	9 [中国5, 韓国2, マレーシア, ブルガリア]	
計		95	38		47	10

	学部生	修士課程	博士課程	研究生	計
留学生	35	27	16	17	95
日本人学生	1070	652	71	26	1793

参考文献

- 続有恒・村上英治編,『心理学研究法 9 質問紙調査』,東京大学出版会,1975.
- 仁科喜久子,「理工系留学生の日本語学習および能力に関する実態調査報告」平成2年度文部省科学研究費補助金試験研究 B「科学技術日本語教材の開発」研究成果中間報告,1991.
- 仁科喜久子・武田明子,「理工系留学生の日本語能力に関する教官へのアンケート調査分析」『科学技術日本語教材の開発』平成2～4年度文部省科学研究費補助金(試験研究 B)研究報告書, pp. 99-107, 1993.
- 村田邦子・唐曉霞,「現代学生のライフスタイルと社会意識に関する調査研究その一—長岡技術科学大学における調査集計の報告—」『言語・人文科学論集』,第7号, pp. 95-122, 長岡技術科学大学, 1993.
- 東京大学工学部日本語教育調査研究会,「東京大学大学院工学系研究科における留学生日本語実態調査」,東京大学工学部日本語教育調査研究会, 1992.